



例会の報告

1月16日の例会では、自立支援協議会の事業内容の現状と今後の方向性を確認した後、2014年以降、八障連がどの様に独自性を打ち出し、会員団体から必要とされる運動として、運営してゆくかについて話し合いを行った。

八障連が運動体として、これまで活動してきた背景には、各団体の共通する課題や問題意識が数多く存在してきた結果、情報交換の必要性や

協議会として纏まった形での市への要望の必要性があった為、方向性は自ずと見えてきていた。

しかし、ここ数年、総合福祉法が少しずつ定着の様子をみせ、家賃補助の課題も現状維持が要望の主となってきた今、各団体が抱えている課題や問題は、法内移行によって、直接、市と交渉をする必要性というものが少なくなってきた実情や、事業形態やサービスが増えた事により、運営面で各団体一丸となって取り組む課題というものが無くなってきた現状がある。

今後の方向性として、「交通環境の整備への取り組み」・「防災」・「当事者活動の強化」・「中核都市として地域に密着したサービスの要望」などが挙げられたが、テーマとして掲げるまでのアプローチについては、話が進まなかった。今後は会を重ねるにつれ、内容を深めてゆく事とし、引き続き継続審議の形となった。 (川出)

八王子市障害者地域自立支援協議会について

八障連と障害者地域自立支援協議会（以下、自立支援協議会）といえは、ころぼっくるの村上さんがまだ事務局にいらっしゃったころ、これからできる自立支援協議会をどんなものにしていけばよいのか、岡山県倉敷市の例を参考に福祉フォーラムを開催したり、先行して取り組まれていた調布市の課長さんをお呼びしたりして学習会を開催したりしていたことを懐かしく思い出します。

さて、自立支援協議会は、3年を1期としています（障害者計画・障害福祉計画も1期3年です）。25年度で第1期が終わりますので、ここで3年を簡単に振り返りながら簡単にご報告させていただきます。

23年度の1年目は、差別禁止条例の案を検討するだけで精一杯でした。12月議会で全会派一致で可決されたときは、正直ほっとしました。当事者の要望が100%叶えられたというわけではありませんが、何が差別かの定義ができ、その申し出や解決に向けての仕組みができたことは大きな成果です。政令市を除く市町村で全国最初に制定できたことも、八王子市民として誇らしいことでした。

2年目には、できた条例に基づいて権利擁護を推進する権利擁護推進部会と入所施設や病院からの地域移行と現在の在宅生活を継続していくための支援を検討する地域移行・継続支援部会に分かれて活動しました。大きな成果としては、権利擁護推進部会を中心に、市民の方に障害の理解を深めていただくためのガイドブック「みんなちがってみんないい」を発行したことが挙げられます。また、条例制定1周年を記念して、講演会+映画上映会をおこないました。そして、3年目は、権利擁護推進部会では、市内事業者向けの虐待に関する研修会を企画したり、大型店舗や医療機関への訪問調査を実施したりもしました。また、地域移行・継続支援部会では、ケアホームへのアンケート調査及び訪問調査を実施したりしました。報告書ができましたら、何らかの形で皆さんにもお伝えできるようにする予定です。

先日、多摩地区の自立支援協議会の交流会が立川であり参加してきましたのですが、すでに平成18年から活動をはじめているところもあれば、今年立ち上がったところもありますし、活動の内容も本当に市町村によってかなりちがいがあることがわかりました。行政の姿勢のちがいということももちろんあると思いますが、障害者団体の数や力量によるちがいも大きいと感じました。

自立支援協議会の委員として、できるだけのことをしたつもりではありますが、第1期は内部の基礎固めという感じで、自立支援協議会の中身はおろか、その存在自体もなかなか八障連の皆さんにもお伝えすることができず、申し訳なく思っています。

やっと4月からは、ふらのの氏平さんにご尽力いただき、八王子市役所とは別に自立支援協議会としてのホームページを立ち上げることができそうです。このホームページを使って、活動報告はもちろん今後の活動予定等も公表していくことで、まず多くの方に活動を知っていただき、将来的には多くの方に参加していただけるようにできればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、4月からは、就労支援部会が新たに設置される予定（2月18日の全体会で承認されて正式決定）です。

自立支援協議会について、ご質問やご意見がありましたら、お気軽に多田代表にご連絡を…。(同封別紙、概要もご参照ください)

<文責/土居>



★ショッキングな出来事

2010年の秋は私にとって一つの転換点になりました。長いこと慣れ親しんだ白杖歩行をやめて、盲導犬を利用して歩くことにしたのです。ずっと以前から、盲導犬を持ちたいと漠然と考えてはいましたが、庭のないマンション住まいでは、トイレのことなど、犬が快適に住めないと考えて、あきらめていたのです。しかし、そのころ、私の白杖の駆使力とでも言うべき能力の限界を感じるような出来事が起きたのです。

その日私は、白杖で足下を確認しながら、JRの駅に向かって狭い歩道を歩いていました。しばらくして、足下に小さな衝撃を感じ、バサッという小さな音もしました。あっと思った瞬間、私の前に人が倒れていました。あるお店の前で立ち止まっていたお年寄りに、勢いよく歩いていた私がぶつかって倒してしまったのです。私は驚いて身をかがめましたが、その方を抱き起こすこともできませんでした。「すみません。大丈夫かしら」と声をかけても、しばらく返事はありませんでした。後ろから歩いてきた人も立ち止まり、心配して見ていましたが、その人はやがて、ご自身でゆっくりと起き上がったので、私も一応ほっとしました。

それまで、私としては結構うまく白杖を使って歩いていたつもりでしたが、このような事故を起こすに至っては私が「歩く凶器」になってしまう。そんな不本意なことは何としても避けたい。まちの中にはお年寄りも、子どもも、もちろん私のような目の見えない者も、いろいろな人が行き交っている。ガイドヘルパーを必要なだけ派遣してもらうことは不可能です。それなら、盲導犬の目で周りの様子を教えてもらって安全に、そして安心してまちを歩きたいと強く思っ、ついに盲導犬ユーザーになることを決心したのでした。

事務局通信 Vol.7

去る1月17日、労政会館で行われた市の地域交通活性化協議会に出席してきました。この協議会は以前もお知らせしましたが、「はちバス」を中心として、鉄道を除く地域交通のあり方を検討する場として、市が設置しているもので、地域住民の代表として八障連も参加しています。

今回は、今年度の始めから検討されている、路線バスの路線廃止等に伴う、交通困難地域への対策を図る場合の、ガイドラインの検討が主でした。その場に出した意見としては、「対象となる地域は過疎地で高齢者も多いと予想されるので、バリアフリーの配慮は必要不可欠…」と伝えました。

さらに、前日行われた例会の中で、路線バスでの知的障害者への接客の問題が出ていたので、丁度その場に路線バス3社の係者と、市の担当課が顔を揃えていることから、「今後のトラブル回避の意味からも、来年度事業の中で何らかの形で検討の場を設けたい」と提案しました。この件については、今後先方や市とも協議して、具体化へ向けて進めていこうと考えています。

なお、この協議会の詳しい資料のバックナンバーをブログに掲載しています。興味のある方はそちらをご覧ください。

〈文責/伊田〉

今後のスケジュール

2月15日(土)	ボウリング大会	13時~15時	高尾スターレーン
2月20日(木)	例会	18時~20時	クリエイトホール第6学習室
3月20日(木)	例会	18時~20時	クリエイトホール(予定)
4月17日(木)	例会	18時~20時	クリエイトホール(予定)

2014年度総会は、5月31日(土)の午後、労政会館にて開催されます。各団体ご出席をお願いします。

